



第2部1等1席 長浜久(北海道札幌)、1等2席 小岩井農場(岩手県)
 第3部 名誉賞 町村啓貴(北海道江別)、1等1席 溝口貞夫(北海道早来町) クイーンウオーカー ダヴィドソン
 第4部 名誉賞 宇都宮勤(北海道厚別)、1等賞 町村啓貴(北海道江別)
 第5部 (今回は1等賞該当なし)、2等1席 横倉守男(埼玉県)
 第6部 1等賞 小栗源太郎(愛知県)、2等賞 佐々木栄三郎(岩手県)
 第7部 名誉賞 笠森与作(石川県)、1等1席 大川三蔵(山形県)
 乳器部 1席 笠森与作(石川県)、2席 山田一英(北海道早来町) マダム デコール ヘンドリカ フォーブス

安平町実行委員会事務局
 (安平町役場農林課)
 ☎ 2515

【酪農だより(ホルスタイン通信)より抜粋】

— 当時の日本 —
 1956年(昭和31年)は、世界的状況の中で日本経済も同様に経済的繁栄を遂げ『もはや戦後ではない』との経済白書の文言から、大戦による戦後復興期は既に終わり『神武以来の好景気』の中で新たな経済発展の時代を迎えていました。さらにこの年は、国連への加盟が実現し日本とソビエト連邦の国交が回復した年でもありました。
 物価 タバコ30円、新聞購読月額330円、大卒銀行員初任給1万円
 ※共進会が記録映画として収録され、販売価格は3万円でした
 流行 太陽族、愚連隊、戦中派、ロックンロール
 うた ここに幸あり、哀愁列車、若いお巡りさん

夢を実現しよう

〈全日本ホルスタイン共進会
 に向け勉強会開催〉



4月15日、全国共進会場開催施設を使ってJ Aとまこまい広域の酪農家が育成技術向上を目的として集い、実際に生産者の牛を参加展示することで管理方法の違いを視覚的に学ぶ勉強会が行われました。
 主催したJ Aとまこまい広域酪農振興協議会は、10月に開催される全日本ホルスタイン共進会に向け「地元からも出品・入賞」を目標に、酪農学園大学特任教授 高橋茂氏を招き、実際の共進会と同様の形式(乳牛を4部門に分

け審査を行う)で審査基準や管理手法などについて学びました。

この日集められた19頭の生後17ヶ月未満の乳牛を審査しながら参加したJ A職員や生産者は活発に質問をしたり、また講師から「生後7〜8ヶ月の牛であれば運動次第で体格がガラッと変わることもある」など個別にアドバイスを受ける場面も見られました。

町民参加

安平町は企画しています。

全国共進会が始まったころから安平町の生産者は参加(選出)していました。それは私達の地域がいかに早くから乳牛を育てることに力をそそぎ実績を積んできたかがわかります。

そんな「酪農の町」といわれた程の安平町は、この全国大会を町民の皆さんとしっかりと盛上げ成功させたいと思います。なじみのない人も参加できます。連載記事で参加方法をご案内しますのでご期待ください。

今回の参加方法

・ 関心(興味)を持つ / 共進会についての疑問・質問は実行委員会に向け発信する。(回答は記事として紹介します。)

ホルスタイン共進会 てななに?

安平町近郊で見かける白黒の牛をホルスタインと称します。かつて日本では四肢、尾の先端付近、鼻の周辺の6箇所は必ず白班が入ることから「六白牛」(ろっばくぎゅう)と称しました。このホルスタインは乳用牛として飼育されていますが能力・体型等総合力を競う大会を各都道府県で行い、5年に1度全国大会を開催しており、いわば「乳牛のオリンピック」です。

共進会に選ばれるには生産者が丹精込めて育てた健康で容姿の優れた牛で、審査会にはきれいに身支度された上で出場します。
 その様子は人間で言うところの「モデル」のコンテストのようになります。